



隠岐の自然学散歩－5「知夫里島の赤壁」

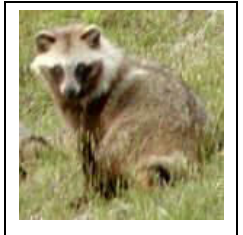
知夫里島は隠岐四島の中で面積が最小で、知夫村の人口は600人と少なく、面積・人口の双方で全国でも極小規模の自治体のひとつです。島の大部分は600万年前に噴火した玄武岩の溶岩で覆われており、後に噴火した側火山  が一部に点在しています。その典型的な露頭を島の西側断崖にある「知夫赤壁(ちふせきへき)」で見ることができます。

ここは玄武岩溶岩台地とそれに貫入した側火山が、日本海の強い波蝕によって火山の噴出部に近い所まで垂直に削剥されたのです。

写真の黒い部分が玄武岩溶岩、赤い部分が噴火した火山灰中の鉄分が空気中で酸化して赤化した凝灰岩、中央の白い岩脈は火道跡に貫入した粗面岩で、これらは見事なジオパークの教材です。尚、名称は中国の古戦場「赤壁」に因んで命名され、国の名勝・天然記念物に指定されています。

島の中央部にある赤ハゲ山は全域に亘って牧草地となっていて、現在は牛が放牧されています。中世より3種の農耕(豆・雑穀・麦)と牛馬の放牧とを交互に4年サイクルで切り替える「四圍式牧畑」  が昭和の中ごろまで行われていました。牧畜期間の糞尿が栄養源となって痩せた土地を持続可能に活用する生活の知恵でした。写真の石垣遺構は牛馬の侵入を防ぐ仕切りです。

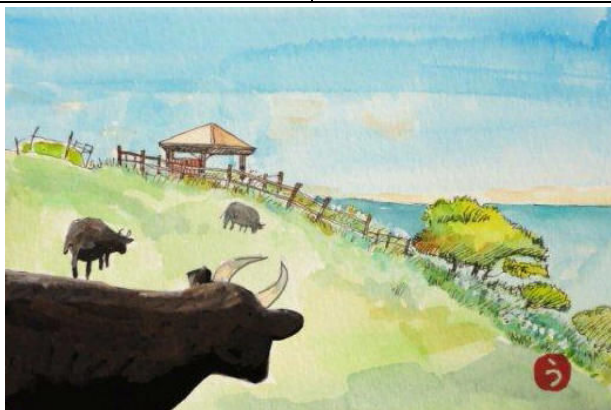
さて、この知夫里島にはタヌキが多数生息していますが、他の島には全く居ません。その理由は半世紀も前の話になりますが、知夫村の村長が本土から飼育用として「つがい」を入手してきて檻付の小屋で飼っていたのです。しかし床が土間だったので穴を掘って脱走したらしいのですが、「ためき掘り」という言葉がある位ですから、村長はそれを抜かっていたのですなあ。本来は夜行動物なのですが、昼間2時間の滞在中に6回も山道で遭遇しました。現在では2千匹位まで増えたため、農業被害が多発し住民は難儀をしているとのことですが、顔付きが結構かわいいので、いっそ逆手を取って「ためきウオッチング」でも企画しますか？



知夫赤壁 (海面より150mの断崖)



知夫・赤ハゲ山の四圍式牧畑の石垣遺構



「牧畑」跡に放牧されている牛 (到 絵師 作・挿画)